

第 3 1 期

令和 1 年度 事業報告書



平成 3 1 年 4 月 1 日～令和 2 年 3 月 3 1 日

一般財団法人 付知町振興公社

平成 31 年度（令和 1 年度） 事業報告の概要

【平成 31 年度の業況】

平成 2 年の裏木曾花街道センターの開業後、平成 1 5 年倉屋温泉の開業と平成 2 4 年ローソンのオープンを経て、3 0 年が経過しました。

平成 2 5 年には一般財団法人への移行を決定し、令和 5 年 3 月(平成 3 5 年)までの 1 0 年間の移行途上にあります。

道の駅、倉屋温泉とローソンを取り巻く環境は、依然厳しい状態です。国道 2 5 6 号の交通量は減少傾向にあり、長期化する米中貿易摩擦や英国の EC 離脱など、昨年来の不安定な国際情勢に加えて、1 月以降の新型コロナウイルス感染拡大の影響で訪日観光客の減少に歯止めがかからない状況です。

1 2 月末には 2 9 年ぶりの高値を付けた日経平均株価も、1 月以降はコロナの影響で下落に転じ、ヒト・モノの移動制限とイベント自粛、経済活動の萎縮が顕著となったことから、付知町振興公社 3 部門の売上と収益状況を直撃する事態に陥りました。

総売上高は対前期 8 7 %に落ち込んだものの、経費削減等の地道な施策の積み重ねで僅少なながら利益を確保しました。

【令和 2 年度の方針】

新型コロナウイルス感染症の影響で、令和 2 年中の国内経済は過去に例を見ないほどの落ち込みになる事が予測されています。

また今後は『マスク着用』や『非接触型の接客』など、新たなスタイルのサービス提供が新基準になりつつあります。

収益 3 部門（道の駅・温泉・コンビニ）の所属長は、来客数の巻き返しと売上確保に向けて、アイデアを惜しみなく駆使しつつ、各施設の魅力を充分発揮した営業展開をします。